

1 活動名

官民連携のまちづくり先進地視察

2 調査の目的

(1) 本市における課題

人口減少時代のなか、中心市街地における大型商業施設の相次ぐ閉店をきっかけに議論が進む本市の「中心市街地再設計、再活性」が目下の重大な課題である。

(2) 調査の必要性

官と民が協働し、街の課題を共有しながら地域課題の解決を目的とした官民連携のまちづくりが本市にとってヒントとなり、カギとなると考えるので、官民連携のまちづくりの実践例の現状を調査する必要がある。

(3) 調査項目

官民連携のまちづくりを実施している具体事例他

ア まちを活かしたストリートジャズフェスティバルの開催経過と市民の取り組み状況

イ 地域課題を解決するための官民連携まちづくりの取り組みと、複合施設建設のプロセス、経過

ウ 紫波町中央駅前都市整備事業(オガールプロジェクト)の取り組み内容

エ 定禅寺通りを対象としたエリアマネジメントの実情と取り組み経過

オ ウォーカブルなまちづくりの手段の一つ宇都宮市の LRT の現状

カ 市役所新庁舎建設における現本庁舎敷地の広場要素として参考にできる南池袋公園

3 調査地選定理由

(1) 定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員長 武藤 政寿氏 他三名

仙台市も「音楽の都」を謳っていることから、市民有志による公益社団法人の協会と、独立した実行委員会で構成する運営母体が、1991年に始まった市民による音楽フェスティバルを支え観客動員数55万人にまで成長させた。

(2) 公益財団法人青年海外協力協会JOCA東北 代表 北野一人氏ほか一名

海外協力隊 JICA (ジャイカ) の卒業 OBOG たちが、支援国から帰国後に災害ボランティアや社会貢献活動に関わる公益社団法人青年海外協力協会 JOCA は、長野県駒ヶ根市に本部を持ち、東北、大阪、広島、鳥取、沖縄、神奈川に拠点を持つ。東北は地方創生事業として岩沼市と連携した多機能型複合施設を建設運営している。本年1月能登地震の被災地で、JOCA が取り組む温泉施設、飲食店、リラクゼーションスペースがある複合施設が、被災者がほっとできる場所として重宝され、支援拠点として機能したことなどが新聞やテレビで何度も取り上げられている。

(3) 株式会社オガール(オガール企画合同会社) 八重嶋雄光氏

公民連携手法を用いながら財政負担を最小限に抑え、地元企業による公共施設整備と民間施設等による経済開発を進めている。また、人と環境にやさしい統一感のある景観で住みよいまちをめざしている。

(4) NPO 都市デザインワークス 代表理事 榊原 進氏

仙台市と民間をつなぐ組織としてエリアマネジメントを実現する事業所・事業者である。

(5) 宇都宮ライトレール

まちづくりに果たす LRT を実体験する

(6) 池袋駅周辺エリア

日常的に利用する街中公園の在り方を防災と連携した整備と合わせ現地で体感する。

4 調査結果

- (1) 実施日 2024年7月4日(木)、5日(金)
- (2) 出席者 神津ゆかり 横内裕治 上條一正 花村恵子
- (3) 調査内容

ア 定禅寺ストリートジャズフェスティバル 7月4日

団体の業務

- ・ 仙台市のシンボルロードである定禅寺通りを舞台に、音楽を通して想いを表現しまちを活性化するストリートミュージック文化の浸透、発展をめざす
- ・ 毎年9月に行われる「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」の企画・運営
- ・ 事務局2人は給料あり、他のスタッフはボランティア

団体・事業の経緯

- ・ 「本来音楽は野外でやるもの」という理念に共感した音楽家、商店街の店主、定禅寺通りのまちづくりを担う人々が実行委員会を作り1991年に始まる。
- ・ 2015年～ 責任の所在を明確化するため法人格取得。市と共催事業へ(公園利用の優先権得る)

イ 公益財団法人青年海外協力協会JOCA東北 7月4日

- ・ JOCA 東北は、市営住宅の跡地である市有地に建つ、保育園併設多機能型福祉事業所施設。
- ・ 2011年東日本大震災の支援から国が進めた地方創生事業が目指す「生涯活躍のまち」を形とする「JOCA 東北」事業を始めた。
- ・ 開所は2021年3月。事業内容は、認可保育園、子育てセンター、障がい者就労継続支援事業所(蕎麦レストラン・入浴施設)、障がい者デイサービス、児童発達支援・放課後等デイサービス、相談支援事業、共生型生活介護、グループホームなど。幅広い年齢の人々が日常的に利用する「ごちゃまぜ」施設。人口4万3千人の市にあって、交流人口28万人。市内外から多くの利用者が訪れる。

ウ 株式会社オガール(オガール企画合同会社)

経緯

- ・ JR 紫波中央駅前の町有地 10.7ha を中心とした都市整備を図るため、紫波町公民連携基本計画を策定し、平成21年度から紫波中央駅前都市整備事業(オガールプロジェクト)始めている。
- ・ 平成21年度から前町長の藤原氏のまちづくりの理念と岡崎氏の提案により、第3セクターを設立し、公民連携事業として紫波中央駅前都市整備事業(オガールプロジェクト)がスタートする。

前町長藤原氏のまちづくりの理念

- ・ 循環をキーワードに街づくりを進めていこうという理念を持ち、循環には有機資源循環、無機資源循環、森林資源循環、経済の循環、人の交流循環、世代の循環があるとする。

岡崎(紫波町出身この事業のキーマンで調整実践者)氏の考え・・・逆算の発想

- ・ 公民連携は民が中心になって事業を展開し、官のお手伝いをする。
→ 公民連携は官<民で民が主体あり 官民連携は官>民で官が主体と位置付
- ・ テナントの家賃収入から開発費用を逆算して建設費を抑えるなど、規模ありきの「官製再開発」とは一線を画す。

エ 仙台都市デザインワークス(定禅寺通りエリアマネジメント)

団体の業務、特徴

- ・ 市民、企業、行政と共同するまちづくりの実践を行うレフェリー役
- ・ 市民が主体のまちづくりを実践・支援する専門家集団 専門スタッフ5名

定禅寺通りの経過

- ・ 戦災復興事業として都市計画事業により整備した道路。1958年に植樹したケヤキ160本、67年に電線類地中化が行われ、車道6車線、中央に都市公園、両側に歩道で構成する幅員46mの道路空間を構成している。
- ・ 今後は北側車道1車線を歩道空間に再編し、けやき並木の下の空間を日常的な憩いの空間に活用する予定。

オ 宇都宮ライトレール

- ・ 令和5年8月26日開業した、国内で初めての新設LRT(次世代型低床式路面電車)は、延長14.6kmで宇都宮駅と芳賀町の工業団地を結んでいる。
- ・ 東北随一の工業団地であることに起因する道路の渋滞対策を起点にし、市長が変わっても事業計画を推進した公共交通である。
- ・ 渋滞緩和とともにMM(モビリティマネジメント)として市民意識の変化があると聞く。また、まちづくりとしての機能もあり今後駅の西側への延伸計画もある。

カ 池袋IKE・SUN PARK、ストリートマーケットと南池袋公園

- ・ 都市の中に整備された防災都市公園とほこみち制度の社会実験で行われている大通りと一連となった公園での日常の賑わい

(4) 成果・所感等

ア 定禅寺通りジャズフェス

- ・ 10年以上前にたまたま仙台市を旅行した際にフェスティバルに遭遇し、そこら中にジャズが溢れ、人々が思い思いの姿で楽しんでいる様子が印象に残っていたが、「どこに行っても音楽が聴こえる」を合言葉に市民が中心となって実行部隊となる委員会を組織しフェスティバルを作りあげてきたことを実感した。
- ・ 「杜の都・仙台の街がステージ」と謳う通り、主となるケヤキ並木の定禅寺通りをはじめ、公園、広場、商店街、ビルの入口までもステージとなり、30カ所以上。これが観客があちこちを歩き回る回遊につながる。
- ・ キッチンカー、グッズの販売で収益を生む、観客が音楽とともに楽しめる環境
- ・ 全国からこのフェスを目指すミュージシャンが多く、またこれを目的に仙台を訪れる人も多いことから「音楽の都・仙台」の印象付けにもつながっている。
- ・ 「ストリートジャズ」と敢えてストリートを付けているのはあらゆるジャンルの音楽が融合し、そこから街に調和する独自の音楽が生まれていくことを願ってとのことで印象的。
- ・ 行政からの支援を得ること、共催となることで会場確保の助けになる一方、あくまで市民主体を大切にしていることに覚悟を感じた。またそれがフェスティバルの自由度にもなっているのだろうと推察した。
- ・ グッズの販売やキッチンカーなどは音楽を通じてまちを楽しむお祭りに
- ・ 9月の開催日だけでなく、日常的に音楽が鳴っているまちにしたい、市民一丸となって次世代に残したいとの話に、松本も全く同様であり、OMFの他に、松本のジャズフェスティバルをより盛り上げるために、開催場所の拡大、ミュージシャンへの呼びかけなど行ったらどうかと考えた。

イ JOCA 東北

- ・ 「まちの活性化」「多世代・多文化共生」「市民の居場所づくり」といった3つの目的を達成するため「生涯現役のまち」を基本コンセプトにできたごちゃまぜの地域拠点。
- ・ 生きがい、人生の目的を強く感じている者は、健康寿命が長いといった研究のもと、「きょういく・きょうよう」の効用を意識し、社会参加の促進を基軸とする政策は、高齢者本人にとっても、地域、社会保障にとっても、効果のある一石三鳥になる。(きょういくは、今日行くところ、きょうようは、今日用事があるという意味。高齢者が今日行くところ、用事があることが大切。)

- ・障がいのある方無い方、高齢者の運動習慣を根付かせる、ジムや温泉で仲間をすることで孤立化の防止につながる。
- ・ごちゃまぜの建物でいろいろな人々が行きかい、それぞれに楽しんだり、働いたり、時間を使ったりしているのを、利用者が見聞きすることで、社会教育の場所や雇用創出の場所としても機能しています。
- ・開発途上国での活動の経験のある人材が豊富で、孤独孤立の無い社会を目指す JOCA の活動は、本市にとって参考になるものとする。

ウ オガール紫波町

- ・紫波中央駅前都市整備事業(オガールプロジェクト)は前町長の藤原氏の理念が岡崎氏の民間力による公民連携の手法により実現された事例として、参考になった。官民連携といわれるが、どのような理念で民間のどのような手法が使われたか、という視点も重要だと感じた。
- ・オガールプロジェクトは公民連携とはいっても、成功事例(モデル)のないなかで、コンサルなどの力を借りずに、職員や町民が知恵を出し独自の取り組みがされたことは重要だといえる。オガールプロジェクトの事例がそのまま使えるとは言えないが、他にない事例として学ぶことは多いと感じた。
- ・公民連携の手法の利点として、行政で事業をするには(住民説明、補助金申請、予算・・・)と手間がかかる。また、公平性・透明性が求められる。そのため一つのことをやるのに1年も1年半も準備しなくては行けないが、民はスピード感をもって仕事を進めることができる。しかし、一方で民であるので、議会や市民にその都度すべて公表しないこともあったとの話があった。官民連携の課題も把握しておく必要があると感じた。

エ 仙台都市デザインワークス

- ・県外出身の仙台デザインワークスの榊原氏がなぜ仙台でこのような街づくりに関わっているかを見ることが、まちと人とのかかわりの重要性が分かる。榊原氏は東北大学で都市デザインを学び卒業時に仙台のまちづくりに関わる機会を得たことから、大学の恩師の指導の下その知見を活かすためにNPO法人としたこと、積極的なまちとのかかわりを20年に亘り継続した取り組みが行政や市民・事業者と連携が取れるようになったと受け止めた。
- ・長町まちの地区計画変更は現在松本市が取り組んでいる中心市街地再活性・再設計のビジョンづくりの方向性の参考としているのではないかと思わせる内容である。仙台市と松本市の都市規模の違いと震災の有無があり、同じような方針を示されることになることに懸念する。
- ・定禅寺通りの空間整備の歴史を見ると、60年以上前に整備した道路が、ケヤキ160本の成長とともに中央部を都市公園に指定した化粧直しの変化からウォーカブルなまちを目指す歩道空間拡張の二回目の変化へと、形態を変える取り組みは行政を巻き込んだ共同事業として行うことで着実な事業展開が図られていることを学んだ。また、ウォーカブルなまちづくりを進めるうえでのキーワードは、木陰、休憩ベンチ、飲食を確認できた。

オ 宇都宮ライトレール

- ・時間の関係から起終点を通して乗車体験できなかったが、都心部の高幅員道路の中央部を自動車と併存しながら走行する電車は心地よい。
- ・交通信号は車と同じく守り、専用軌道を優先して走ることで渋滞に影響なく走る。一般鉄軌道電車よりスピードはないが、大量輸送を定時定刻走行が可能なことは優位性がある。
- ・MMIにより自動車をうまく使うようになることで、街中の人優先の意識を醸成することはウォーカブルなまちづくりのためには非常に有効である。

カ 池袋IKE・SUN PARK、ストリートマーケットと南池袋公園

- ・IKE・SUN PARK は都心部の防災公園として整備したもので、「公園から街が変わる。」「公園が都市を守る。」をキャッチに日常と非常時を使い分けている。日常は街を変える親子が楽しむ多様な小規模店舗が配置され、芝生の空間とともに公園の賑わいがあるが、防災訓練が定期的実施され、防災施設ガイドのパンフレットが用意され非常時に備えている。日常と非日常が同居する素晴らしい大規模公園である。
- ・駅から続くグリーン大通りには STREET KIOSK というストリートファニチャーを配置し、その一部を物販やワークショップ、飲食などが出店できる場に改修し、座ったりするだけでなく挨拶や会話が生まれる場にする社会実験により、まちの日常を耕している。
- ・南池袋公園は、グリーン大通りとともに年内に日常に集う場として機能している。三の丸エリアビジョンの松本市役所本庁舎敷地の使い方イメージとして参考にしている公園でもある。公園は芝生広場の一角に雨をしのげる屋内スペースと飲食を楽しめるスペースが配置されている。

キ 視察を通して共有したもの

- ・それぞれの事業に共通するのは説明した方の自信に満ちた話ぶりだった。二カ所が事業視察を有料としていたことは、行政等と連携した実績に裏打ちされていること、民間であり事業継続に資するためと受け止めた。
- ・官民共同事業の成功は事業に関わる者(人)の重要さであり、事業に係る知識はもとより、最も重要なことは、それぞれの専門知識を持つ人と人をつなぐコミュニケーション能力にあること再認識した。
- ・官民・公民どちらの表現が良いか議論はあるが、共同作業によりまちを創るにはどちらにも肩入れしない公平な立ち位置が取れる者が必須である。公平さに加え、求める力量は、知識と経験に裏打ちされる言葉と行動力であり、信頼関係を作る汗を掛ける人材が必要となる。

5 政務活動費

- (1) 使途項目 調査旅費
- (2) 支出額 361,060 円 (日当 9,000 円、宿泊費 29,600 円、交通費 41,040 円) × 4 人、研修費 16,500 円、視察対応費 22,000 円、ライトレール 1 日乗車券 1,000 円 × 4 人